

教育実践力コース 令和7年度入学生用 カリキュラム・ツリー ※学習成果の達成に向けてどのような授業科目が連携し年次配当しているかを示しています。

コースの概要と人材養成のねらい

児童・生徒に即した、実践的で高度な学習指導、学習評価の能力を持ち、教員としてのカリキュラム・マネジメントや、教科横断的な視野を持った教科・領域の指導、今日的な教育課題に対応した授業開発に、先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員を養成します。そのため、カリキュラム・マネジメントの理解を起点として、教科を統合する力を身に付けるとともに授業単元・カリキュラム設計とその評価・改善ができる能力を獲得させます。また、アクティブ・ラーニングなど効果的な授業形態の導入、パフォーマンス課題の設定とルーブリック評価の適切な活用など、教育実践力を総合的に育成します。

配当学年	開講期	(DP1) 学校教育の発展的理解	(DP2) 指導内容の高度な理解と実践的指導力	(DP3) 多様な子どもに対応できる指導力	(DP4) 教職力量をみがく力
		・社会における学校の役割と専門職としての教員の在り方を理解し、学校教育の発展に寄与する自己の役割を俯瞰的に捉えることができる。 ・学校安全と危機管理、人権教育、多文化共生などの今日的な教育課題について理解し、それに応じた実践を計画・実施できる。 ・学校の実情や特徴を分析・把握し、より良い学校づくりに向けたアクションプランを実施・評価できる。	・教育課程編成の今日的課題やカリキュラム・マネジメントの理論を理解し、それを踏まえた実践を推進できる。 ・各学校の実情を踏まえて、当該校の教育課程全体を編成できる。 ・教科等の授業の多様性や今日的な在り方を理解し、それらに応じた授業を計画したり、そのための教材を準備したり、その指導と評価を工夫したりできる。 ・教科横断的な視点に基づき、また校園種をまたいで、教科領域のカリキュラムを構想・実践できる。 ・教科領域の教材・題材を開発し、実践的に展開・評価できる。 ・アクティブ・ラーニングを実現するために、各教科や教科領域の指導に即してICTを効果的に活用できる。	・校園における生徒指導上の諸課題について、多様な個人的・社会的背景をふまえて多面的に理解し、理論的・実践的に考察できる。 ・各学校種の諸課題に関して、発達の段階や個人の特性・障害、状況に応じた指導ができる。 ・児童生徒の多様な課題に対し、学校内外の人材や組織と協働して、社会的包摂に向けて支援・援助を行うことができる。	・教育実践を研究的に展開するための視点と方法を会得している。 ・教育実践者としての自己を省察するとともに、他の教員との学びあいの中で教員の資質能力の向上をリードすることができる。 ・組織としての学校やその基本単位としての学校の在り方、コンプライアンスの重要性を再認識し、地域・保護者・他機関との関係の構築を進めることができる。 ・教材や題材を開発することの重要性を認識し、それを実行できる。 ・授業を研究的に分析・省察し、授業改善につなげることができる。 ・他の教員と協働で、教科横断的な教育実践を立案・実践・省察できる。
M2	T4				学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造[2]
	T3			社会的包摂に関する実践的探究[2]	
	T2				外国にルーツのある子どもの教育Ⅲ[2] 通常学級におけるインクルーシブ教育の実践[2]
	T1	人権教育の課題と実践[2] 学校安全と危機管理[2]	探究学習の開発と実践[2]		
M1	T4		教育評価の理論と実践[2]	インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援[2]	
	T3	グローバルスタディーズの展開[2] 外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ[2]			
	T2			子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践[2]	
	T1	インクルーシブ教育の理論と実践[2] 学校経営と学級経営の理論と実践[2]	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践[2] カリキュラムの編成原理とマネジメント[2] 学習指導の実践的展開[2]	生徒指導と教育相談の実践的課題[2]	教育実践の研究手法[2]
研究科共通科目 太字は必修					
研究科共通科目 (FS対応科目) 太字は必修					
実践課題研究Ⅰ・Ⅱ [計4]					
コース科目 必修					
コース科目 選択					
学校実習科目 [計10]					
多職種協働による組織マネジメント[2]					
高度教科内容研究[1]					
高度授業研究[1]					
教材・題材開発研究[1]					
授業研究[1]					

※科目名の [] 内の数字は単位数